



5月のほけんだより

平成28年 第186号



予防接種について



感染症と予防接種



子どもの病気で一番多いのは感染症です。
感染症には風邪程度の軽いものから、命に関わる重篤なものまであります。
予防接種をすることで、病気にならないようにしたり、かかっても重症化するのを防いだりすることができます。



生ワクチンと不活化ワクチン



予防接種は生ワクチンと不活化ワクチンに大別されます。



生ワクチン

生きた病原体を弱めて作った予防接種。
生ワクチンは、体に軽く感染させ免疫を作るので、接種後しばらくしてその感染症の症状がみられることがあります。(たとえば「おたふくかぜワクチン」であれば、耳下腺が腫れる症状がみられることがあります。)

不活化ワクチン

病原体を殺菌し、免疫を作るために必要な成分だけを取り出して作った予防接種。実際にその感染症の症状がでることはありませんが、繰り返し接種する必要があります。



定期接種と任意接種



予防接種には国が積極的に推奨している定期接種と、希望者のみが受ける任意接種があります。定期接種は定められた期間内であれば費用はかかりません。

平成26年10月に水ぼうそうワクチンが定期接種化されてから、早くもその効果が現れ始めており、水ぼうそうにかかる子が減少しています。


特に乳幼児期に、水ぼうそうで入院する例が減少し、定期接種化は大きな力を発揮しています。




★予防接種はワクチンごとに接種する年齢や回数・間隔が違います。
(下記参照)

かかりつけ医とよく相談し、適切な時期に予防接種を受けましょう。

★ 定期予防接種

 : 接種可能な年齢(法定接種対象年齢)


 : 望ましい接種年齢

()内は標準的な接種期間

ワクチン名	出生後	3か月	6か月	9か月	1歳	1歳半	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	
ヒブ※ (インフルエンザ菌b型)		①②③			④															
		(27日～56日間隔で3回)→(3回目終了後7か月～13か月までの間隔をおいて1回)																		
小児用肺炎球菌※		①②③			④															
		(27日以上の間隔で3回)→(生後12か月～15か月に至るまでの間に、3回目終了後60日以上の間隔をおいて1回)																		
4種混合(DPT-IPV) ジフテリア(D) 百日咳(P) 破傷風(T) 不活化ポリオ(IPV)		1期初回 ①②③ (20日～56日までの間隔で3回)				1期追加 ④ (3回目終了後12か月～18か月までの間隔をおいて1回)														
3種混合(DPT) 不活化ポリオ(IPV)	(注)原則として4種混合ワクチンを接種 過去に生ポリオ・不活化ポリオ・3種混合ワクチンを接種した人が、必要接種回数(4回)の不足回数を接種します。接種可能な年齢、望ましい接種年齢、標準的な接種期間は4種混合と同じです。																			
BCG(結核)			①		1歳になる誕生日の前日まで (生後5か月～8か月)															
麻しん風しん混合(MR)					1期 ①(1歳)						2期 ②									
	(注)原則としてMRワクチンを接種 麻しん、風しんのいずれか一方にかかったことのある人、あるいは特に単独ワクチンの接種を希望する人等は単独ワクチンを接種することもできます。接種可能な年齢、望ましい接種年齢、接種回数は麻しん風しん混合と同じです。																			
水痘(水ぼうそう)					①	②	(1回目終了後6か月～12か月までの間隔をおいて1回) (生後12か月～15か月)													
日本脳炎						1期初回 ①② (6日～28日までの間隔で2回)(3歳)			1期追加 ③ (2回目終了後およそ1年後1回)(4歳)				2期 ④ (9歳)							
2種混合(DT)																		2期 ①(11歳)		
子宮頸がん予防 (ヒトパピローマウイルス)	小学校6年生～高校1年生相当年齢の女子 (注)現在、子宮頸がん予防ワクチンの接種を積極的にはお勧めしていません。																	①②③ (中1)		

※ヒブと小児用肺炎球菌は、望ましい接種年齢以外の年齢(月齢)で接種を開始する場合、接種回数・方法が異なります。

★ 任意予防接種

 : 任意接種が可能な期間

B型肝炎	(4週間隔で2回、更に1回目から20～24週を経過した後に1回) ※母親がB型肝炎キャリア(保因者)の場合健康保険適用あり(生後2, 3, 7～8か月で計3回)。																		
ロタウイルス	(生後6週以降、4週以上の間隔で、計2回と計3回の2種類のワクチンがある。)																		
おたふくかぜ	(12か月以降1～2回) ★保育所など集団生活に入る子は早めに受けましょう。																		
インフルエンザ	(生後6か月以降2～4週間隔で2回/毎年) ★10月後半から流行期前の間に受けましょう。(年1回)																		

ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>